

ヘルマンハーブ協会

ヘルマン・フェー・ハーブ・ジャパン 有限会社。日本ヘルマンハーブ協会 代表取締役 梶原 彰

学業修了後は大手電機メーカーに就職。26年間勤務し、そのうち11年間はヨーロッパを中心とした海外に勤務する。その中で約6年前ウィーンに駐在していた際、奥様の千里さんが福祉関連製品の見本市にてヘルマンハーブと出会ったことをきっかけに、二人でヘルマンハーブの生みの親であるヘルマン・フェー氏を訪ね親交を深めてきた。海外勤務を終え、平成16年に奥様が『ヘルマン・フェー・ハーブ・ジャパン』を創業、平成19年には前職を辞して自らが代表に就任した。以来これまで培ってきたノウハウを活かして、奥様とともにヘルマンハーブの普及に努めている。



梶原社長の奥様である千里さんが理事長を務める『日本ヘルマンハーブ協会』は、講演会や体験会など様々なイベントを各地で催している。中でも、障害を持つ人はもちろん子どもから高齢者までが同じステージに上がって一つの曲を奏でる演奏会は、その場にいる全ての人々が心を動かされるという。

障害の有無や年齢・性別の違いを越えて音楽の楽しさを皆が分かち合えるからこそ一体感が生まれ、新たな世界が作り出されているのだ。



日本ヘルマンハーブ協会 理事長 梶原 千沙都

ヘルマンハーブの開発者ヘルマン・フェー氏の信託を得て、日本でのヘルマンハーブの普及を進める唯一の団体です。

2004年にヘルマンハーブの開発者であるヘルマン・フェー氏からヘルマンハーブの日本での普及を一任され、日本の皆様にドイツが生んだこの素晴らしいバリアフリー楽器をご紹介できますことは、たいへん大きな喜びです。ヘルマンハーブの考案者、ヘルマン・フェー氏(1935年生まれ)にはダウン症を持ってこの世に生まれたアンドレアスさんという息子さんがおられます。氏は、アンドレアスさんが弾くことのできる楽器を求めてドイツ中を探し回りましたが、ダウン症のアンドレアスさんがメロディーを奏でることのできる楽器に出会うことはできませんでした。そこで氏はアンドレアスさんが弾き進めて、その才能を高めていくことのできる、新たな楽器の考案に着手し、1987年、ついにヘルマンハーブが完成しました。ヘルマンハーブはヘルマン・フェー氏が開発したオリジナルの楽譜(奏法譜)を、弦の下にさしはさんで演奏します。このオリジナルの楽譜は、音符の形状や大きさによって、五線譜が読めなくてもメロディーを弾ける工夫がされています。メロディーのところどころからは、水平な破線が左に延びており、その先に伴奏音の玉がついています。ヘルマンハーブでメロディーを弾きながら、伴奏の玉を同時に弾くと、誰もがすぐに伴奏つきでいろいろな曲を演奏することができます。また、楽譜を左右にスライドさせると、すぐに歌のキーを高くしたり、低くしたりすることができます。

ドイツ演奏旅行

ヘルマン・フェー氏アンドレアスさんとともに このすばらしい奏法譜の工夫は、ヘルマンさんとアンドレアスさんの数え切れないほどの試みによって生み出され、その結果、ヘルマンハーブというこれまでにないまったく新しい楽器が生まれました。そして、アンドレアスさんのように障がいのある人々のみならず、多くの健常者にとっても楽器演奏への憧れをかなえてくれる夢の楽器が誕生しました。

ヘルマンハーブは、障がい者であれ、健常者であれ、異なる能力を持つ人間がともに演奏をするという“音楽のバリアフリー”の世界を開いた弦楽器として広く知られていますが、ドイツで手作りされているヘルマンハーブの素晴らしさは、本物の楽器ならではの演奏力を誰もが深めて行ける奥の深い楽器であるという点です。演奏への間口は広く開かれ、演奏と奏法の奥行きはとどまるどころを知らぬ深さを持ち合わせているのです。

全国に広がるヘルマンハーブ認定教室では、本物の音色ならではの独自の奏法と教授法で、音楽で育まれる人の輪を楽しんでいただけるでしょう。聴く人には深い慰めを、弾く人には自らの美しい音色に包まれる感動を与え続けています。

障がいを持つわが子のためにこの素晴らしい楽器を生み出した”親の思い”—このヘルマンハーブの素晴らしい発祥の歴史を、その意味を纏う奏法に乗せてお伝えすることが私の使命であると思っています。

なにとぞ皆様のあたたかいご支援を賜りますようお願い申し上げます。